

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 経営情報学部

基準 2 内部質保証

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0203	2019 年度ピアレビューで、OB による外部評価委員会を立ち上げるべきとの留意点が指摘されており、まだ検討中とのことであるので、外部評価を実現することが望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
企業や高等学校など、外部と連携した教育を広く行っており、それらステークホルダーの間では本学部の教育における意見交換は頻繁に行われている。それら企業や高等学校の関係者に加え、卒業生や在学生の保護者なども含めた外部評価委員会による外部評価についての検討も進めているが、外部評価をお願いするには外部機関との関係構築にもう少し時間がかかる。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0201	内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。	自己評価	B
評価の視点	(3)大学全体規模や学部、研究科その他の組織（教職課程を実施する全学的組織を含む）における自己点検・評価をそれぞれ定期的に実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。 (4)学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。 (5)行政機関、認証評価機関等から指摘事項があった場合、それに適切に対応しているか。			
現状説明				
・2021 年度に行われた自己点検・評価において詳細点検[2-1]を実施し、ピアレビューを受けると共に、2022 年度、2023 年度には年度点検[2-2] [2-3]を実施した。 ・2021 年度自己点検・評価の詳細点検の報告[2-4]およびピアレビューの結果[2-5]について、教授会・主任会議にて公表され、教職員間で情報を共有した。 ・2022 年度、2023 年度の自己点検・評価の年度点検の結果について、教授会にて確認し[2-6] [2-7]、教職員間で情報を共有した。 ・個々の教員はFD 活動の一環として年度始めに「教育活動重点目標」を設定し、年度末に「自己評価シート」[2-8] [2-9] [2-10] による振り返りを行い、教育の質の向上と各々の資質向上[2-11]に努めている。その自己評価を				

主任会議において点検して評価し、学部ポイント（全体の 60%分）として点数化して、高等教育推進部が運営する教育活動顕彰制度に情報提供[2-12] [2-13] [2-14] することで総合評価・顕彰を行っている。
・2021 年度、2022 年度、および 2023 年度の教育活動顕彰制度の学部ポイントの評価基準・方法について、主任会議[2-15] [2-16] [2-17]にて見直しの検討を行った。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No.0201.	2021 年度に自己点検・評価に対するピアレビューを受審し、その結果をもとに改善を行っている。 [2-1]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0201	外部評価制度の導入
今後の改善・向上方策	
外部評価組織の立ち上げと外部評価の実施について具体的な検討を開始し、実現に向けた努力を行う。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0201	外部評価委員会による外部評価について検討が進められている。また、2021 年度ピアレビューの結果、2022 年度、2023 年度の自己点検・評価の結果に基づき改善が行われている[2-1][2-2][2-3]。
長所・特色	
0201	外部ステークホルダーとの間で教育に関する意見交換が頻繁に行われている。
0203	企業や高等学校など、外部と連携した教育を広く行っている[P2-1][P2-2][P2-3]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
【A】・・・緊急の改善を要する事項	
【B】・・・検討を要する事項	
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
P2-1	経営総合学科パンフレット	○
P2-2	経営情報学部公式 Youtube	○
P2-3	講義科目のシラバス	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021~2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 経営情報学部

基準 4 教育・学習 (4a)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0402	カリキュラムマップ、履修モデルガイドについて、一層の活用方法を検討することが望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
教育課程の一部変更によりカリキュラムマップの改定を行った[4a-1]。学生が自らの興味・関心、能力、将来の進路に応じたより適切な履修が行えるよう、「カリキュラムマップ」・「履修モデル」の活用方法についてさらなる検討を行っているところである。カリキュラムマップと履修モデルガイドについての説明を新入生ガイダンスやさらにはオープンキャンパスで実施することで、新入生に理解させるだけでなく、入学前の高校生にも理解したうえで本学科を受験していただく方針で検討中。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0401	達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学位授与方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成・実施方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程および教育・学習の方法を明確にしているか。 (2)上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。			
現状説明	・学部学科の学位授与の方針（DP）、教育課程の編成・実施方針（CP）については、2023年度の3つのポリシーの全学的見直しに合わせて、その適切性を学部教務委員会ならびに主任会議にて十分に検討した上で全学のポリシー検討WGと調整を行いながら見直しを行った。また、その内容は中部大学ホームページ内「情報公表」[4a-2]において広く社会に公表している。 ・「学生便覧」[4a-3] [4a-4] [4a-5]により、学部学科の学位授与の方針（DP）、教育課程の編成・実施方針（CP）を在学生に示している。 ・履修コースモデルを設定し、その活用法をガイドするパンフレット（「コースモデル別履修ガイド」）[4a-6]を作成し、在学生に配布している。			

自己点検・ 評価項目	0402	学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、 教育課程を体系的に編成していること。	自己 評価	A
評価の視点	学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程 を体系的に編成しているか。 ※ 具体的な例 ・授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。 ・各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。 ・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。 ・学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間および単位の設定。			
現状説明				
・2021 年度の新教育課程の編成にあたっては、CP に沿った体系的、かつ、学習内容の順序性を考慮した科目の配 置を行い、すべての授業科目の分類・難易度等について「科目ナンバリング表」[4a-7]により在学生に示すとも に、その体系をカリキュラムマップにて明示し、学びの過程を可視化している。 ・高大接続への配慮に関連し、特に配慮が必要な推薦等入学者に対して、入学前ガイダンスを実施すると共に、充 実した入学前教育プログラムを実施している [4a-8]。 ・1 年秋学期にはスタートアップセミナーに引き続き「基礎ゼミナール」を必修科目として設置し、初年次教育と 専門教育の接続を行っている。 ・ビジネス教育の実践性を重視し、企業や地域と連携した科目を多く設置することで、社会連携教育を広く展開し ている[4a-9]。 ・資格関連科目を選択必修とすることで[4a-10]、ビジネス系資格取得の動機づけを行っている。				

自己点検・ 評価項目	0403	課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	自己 評価	A
評価の視点	(1)授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果および教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。 (2)ICT を利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。 (3)授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。 ※ 具体的な例 ・学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応。 ・単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置。 ・シラバスの作成と活用（学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容であるか。）。 ・授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等などの措置。			
現状説明				
・正課・正課外での資格取得サポートを積極的に行うとともに[4a-11]、資格学習室の設置などの資格学習環境の整備を行っている[4a-12]。特に資格に関しては、資格科目関連の教員が空き時間や昼の休憩時間に資格学習室で、学生の学習サポートにあたっている。 ・1 年春学期の学部専門科目の授業については、フレッシュマンテストの点数によってクラス分けを行い、習熟度別クラス編成により授業を実施している [4a-13]。 ・単位制度の趣旨を考慮した単位の実質化を図るための措置として、CAP 制(履修単位上限) [4a-14 p.3] [4a-15 p.3] [4a-16 p.3]が導入されているとともに、学修が不十分な学生が単位修得で問題が生じないよう、進級要件 [4a-14 p.3] [4a-15 p.3] [4a-16 p.3]が定められている。 ・シラバスの記載内容には、カリキュラムの中での位置付け、身につく基礎力、授業の主旨（概要）、具体的達成目標、授業計画、授業方法、成績の評価方法、成績の評価基準、教科書、参考文献があり、シラバスに必要な内容を網羅している[4a-17]。 ・第三者によるシラバス点検を実施[4a-18]し、授業主旨、授業計画（授業内容・授業外学習）、授業方法、評価方				

法などがDP・CPに基づく「カリキュラムの中での位置付け」とDPに対応した「身につく基礎力」などに相応しいか否かを判断し、不備がある場合には科目担当者に修正を求めている。 ・全ての授業において授業評価が行われ、授業の目的が効果的に達成できるかを各教員が確認し、指導の改善に役立てている[4a-19]。 ・授業時間外における学生の学修を促進するために、シラバスにおいて「授業外学習」[4a-17]欄を毎回の授業ごとに設けている。 ・授業編成および管理運営に関して、全学共通教育科目の他、一部の学部専門科目についても、授業形態や内容、必要設備に応じて受講者数の制限を設けている[4a-20] [4a-21] [4a-22]。また、1年生の指定科目や学部基礎科目、受講生が多く見込まれる科目などでは、2～3の複数クラスを設置している他、ゼミナールなどにおいては定員設定を厳格に行い、少人数クラスでの指導を徹底している。また、過去の受講者数などを参考に受講学生数を予測してクラス数の決定、曜日や時限の変更、同一時限に配置する科目の変更などを行い、クラスサイズの適正化を図っている。 ・学期はじめのオリエンテーションにおいて、その学期の履修上の注意を与えるなどの履修指導ガイダンスを行うとともに、その翌日には、履修相談の時間をもうけ、学生からの相談対応[4a-23] [4a-24] [4a-25]を行っている。また、指導教授による履修相談も、随時、行われている。 ・ビジネスパーソンに必要とされるコラボレーション力、コミュニケーション力、課題発見・解決能力が効率的に身につくように221C演習室を設置し、設備のさらなる充実化をすすめている。
--

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0401	「コースモデル別履修ガイド」を作成・配布、学生に対する履修指導での活用。
項目 No. 0402	資格関連科目を選択必修とすることによるビジネス系資格取得の動機づけ。
項目 No. 0403	積極的な正課・正課外での資格取得サポート。資格学習室の設置などの資格学習環境の整備。資格科目関連の教員が空き時間や昼の休憩時間に資格学習室で学生の学習サポート。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0401	カリキュラムマップが作成されているものの、十分に周知・活用されていない。
今後の改善・向上方策	
学生が自らの興味・関心、能力、将来の進路に応じたより適切な履修が行えるよう、「カリキュラムマップ」・「履修モデル」の活用方法についてさらなる検討を行う。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0401	カリキュラムツリーの改善が必要である。
今後の改善・向上方策	
必要な情報を盛り込みながら学生にわかりやすい図となるよう、カリキュラムツリーの表現の改善を進めていく。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0401	DP および CP が適切に見直され公表されている。CP に沿った体系的かつ適切に授業科目が開設されている[4a-2][4a-3][4a-4][4a-5]。すべての授業科目の分類・難易度等を「科目ナンバリング表」により在学生に示すとともに、その体系をカリキュラム・マップにて明示し、学びの過程を可視化している[4a-6][4a-7]。 「コースモデル別履修ガイド」でのコースモデルは、特にスポーツコースは特技推薦入学生を対象とし、いずれのコースモデルも CP に沿った教育課程の中で学習成果の達成につながるよう設けられ活用されていることをヒアリングで確認した。
0402	学習成果の達成につながるよう CP に沿った体系的かつ適切に授業科目を開設するとともに、入学前ガイダンスを含む入学前教育プログラムの実施、1 年秋学期必修科目「基礎ゼミナール」による初年次教育と専門教育の接続を行っている[4a-8][P4a-1]。また、ビジネス教育の実践性の観点から、社会連携科目を開設し、資格関連科目を選択必修とすることでビジネス系資格取得の動機付けを行っている[4a-9][4a-10]。
0403	学習成果の達成と学生の学習意欲を高めるため、資格取得支援のため資格学習室を設置[4a-11][4a-12]、1 年春学期の学部専門科目の習熟度別クラス編成[4a-13][P4a-2]、単位の実質化[4a-14][4a-15][4a-16]、受講者数制限やクラス編成[4a-20][4a-21][4a-22]、履修相談[4a-23][4a-24][4a-25]、設備の充実化[P4a-3]、など適切な措置が講じられている。授業形態・授業方法が教育課程に応じたものとなり、チェック体制が整えられている[4a-17][4a-18][4a-19]。 以上のことから、DP および CP の適切な公表が行われるとともに DP・CP に基づいた授業科目を開設し教育課程を体系的に編成し、教育課程のチェック体制を構成して実践していると判断できる。
長所・特色	
0401	「コースモデル別履修ガイド」を作成・配布、学生に対する履修指導での活用[4a-6]。
0402	資格関連科目を選択必修とすることによるビジネス系資格取得の動機づけ[4a-11]。
0403	積極的な正課・正課外での資格取得サポート。資格学修室の設置などの資格学習環境の整備。資格科目関連の教員が空き時間や昼の休憩時間に資格学習室で学生の学習サポート[4a-12]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	[A]・・・緊急の改善を要する事項
	[B]・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
P4a-1	基礎ゼミナールシラバス	○
P4a-2	授業担当者一覧	●
P4a-3	2024・2025 年度以降における教育研究に係る学部等重点事業計画案について	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2024 年度（対象年度 2021～2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	経営情報学部
--------	--------

基準 4	教育・学習 (4b)
------	------------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0407	学習成果について組織として把握、評価されていないので、今後はアセスメントテストなどの評価を学部学科で活用することが望ましい。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学生の学修状況を組織として共有・評価する取り組みとして、「学びに関する調査」結果に基づく分析結果についてのFD活動を実施した[4b-1]。また、これまでアセスメント・テスト（GPS-Academic）を実施した学生数が少なかったため、2024 年度の入学生からは未受験の学生とその指導教員を調べ、学科主任から指導教員へ連絡することで、受験率を高めるなど、努力を行っている。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	0404	成績評価、単位認定および学位授与を適切に行っていること。	自己 評価	A
評価の視点	(1)成績評価および単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。 (2)成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。 (3)既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。 (4)学位授与における実施手続および体制が明確であるか。 (5)学位授与方針に則して、適切に学位を授与しているか。			
現状説明				
・シラバスに掲げている「達成目標」に基づく成績評価がなされているかについては、シラバスに明示された成績の評価方法[4a-17]および成績の評価基準[4b-2]にしたがって、各教員（評価責任者）が成績評価を行っている。また、シラバスを確認することなく履修する学生も増えつつあるため、授業中にシラバスの内容について各科目担当教員が説明している。 ・留学や編入学に伴う既修得単位の認定に関しては、中部大学学則第 10 条・第 11 条[4b-3 pp.3-4]に明記されており、具体的な科目の認定については、学科主任が原案を作成した上で主任会議において協議・決定し、教務支援課に確認した上で、教授会で承認することになっている。 ・成績評価方法の客観性・厳格性に関しては、「成績評価の方法」「成績評価の基準」についてシラバスの第三者点				

検を実施[4a-18]し、確認している。 ・学生は成績評価に疑問がある場合に確認できる制度が設けられている [4b-4]。 ・卒業要件は、中部大学学則第 18 条[4b-5 p.6]および学生便覧[4a-14 p.4][4a-15 p.4][4a-16 p.4]に明記されており、新入生オリエンテーションなどでも学生に周知が図られている。 ・学位審査の客観性および厳格性を確保するために、卒業研究については、他の教員や学生に公開する形で、すべての学生が卒業研究発表会を実施することが義務づけられている [4b-6]。また、これまでは学生による卒論発表の形態や成果物の保管などは各教員の裁量に委ねられていたが、2018 年度からは、すべての卒業論文を各指導教員より学科主任に提出[4b-7]することとし、成果物に関しては、一定期間事務室にて教員が自由に閲覧できるようにしている。 ・学位論文審査基準は、学科の「卒業研究」のシラバス[4b-8]の「成績評価方法」「成績評価基準」に明記されているが、具体的に、どの程度のものがどのような評価を得るのかの基準は明文化されておらず、実際には、各指導教員の裁量に委ねられている。 ・学位授与に係る責任体制および手続は中部大学学位規程第 5 条[4b-9]に明確に示されている。学部教授会[4b-10][4b-11] [4b-12]において卒業認定がなされ、中部大学学位規程に則り卒業認定されたものに学位授与を行っている。
--

自己点検・評価項目	0405	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。 (2)学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。 (3)指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用を図っているか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメントテスト（GPS-Academic） ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査（学びに関する調査 等） ・卒業生、就職先への意見聴取			
現状説明				
・学習成果の指標として Grade Point Average（GPA）制度[4b-13 pp.5-6][4b-14 p.6] [4b-15 p.6]を導入し、学習成果の確認や教育指導に利用している。 ・卒業生への意見聴取の一つとして「学びに関する調査（卒業生）」を行っており、調査の有効性を高めるため回答率向上の取り組みを行い、2023 年度調査では 86%の回答率となった。 ・中部大学教育支援 Tora-net portal[4b-16] により学習成果（学生の出席や単位修得の状況、各科目の成績、各学期の GPA 等）に関する情報の把握と共有がなされている。 ・進級判定を教授会で審議・承認することになっており、進級状況は学部教授会[4b-17] [4b-18] [4b-19]において共有されている。 ・成績分布[4b-20 pp.173-280]、進級[4b-20 pp.115-116]などの実績については、『教育・研究活動に関する実態資料』により教員各自が検証しているが、学部学科全体で、その実態について共有する仕組みは特にない。 ・GPS-Academic については、学生の実施率に課題を残しているだけでなく、その結果の有効な活用方法についても検討の途上にある。				

自己点検・評価項目	0406	教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしているか。 (2)課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。 (3)外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。			

	(4) 自己点検・評価の結果を活用し、教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。
現状説明	
・学習成果の指標として GPA および単位修得数を用い、特に単位修得が一定以下の学生には、当該学期末から翌学期始めにかけて面談を行って面談記録を残す[4b-21] など、個別指導に活用している。 ・「学生による授業評価」結果を活用して、各教員が授業方法の改善・向上に取り組んでいるが、学生の授業評価回答率が必ずしも高いことが課題となっている。 ・各教員が年度ごとに重点目標を掲げ、年度末に達成度および改善点について自己点検・評価[2-8] [2-9] [2-10]を実施し、次年度以降の改善・向上に努めている。	

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0405	中部大学教育支援 Tora-net portal[4b-16] により、各教員は指導学生の単位修得状況を把握するとともに、取得単位数の少ない学生に対しては、最低学期ごとに個別面談を実施している。また、その結果を共有のために Web 上に記録を残している。
項目 No. 0405	学生の学修状況を組織として共有・評価する取り組みとして、「学びに関する調査」結果を教授会で共有するとともにその分析結果についての FD 活動を実施した[4b-1]。
項目 No. 0404	毎年のシラバスの第三者点検[4a-18]により、教育内容、授業計画、成績評価基準等の適切性について第三者による確認を行っている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0404	ほとんどの授業科目における成績評価の基準等については、学部内で厳密な指針はなく、各担当者の判断に委ねられている。
今後の改善・向上方策	
学習成果の学部全体での測定の実施を検討予定。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0404	成績評価、単位認定および学位授与について、明確な基準に従って適切に実施されている[4a-17][4b-2][4b-3][4b-4][4b-5][4b-6][4b-8][4b-9][4b-10][4b-11][4b-12]。シラバスの適切性は第三者点検により担保されている[4a-18]。なお、授業科目における成績評価基準については学習到達目標の 6 割達成を統一の評価基準としていること、学位論文審査については卒業研究発表会において全教員が参加し DP に沿った評価を行っている体制であること、をヒアリングにて確認した。
0405	GPA と GPS-Academic を用いて学生の学習成果を適切に把握および評価している[4b-1][P4b-1][4b-13][4b-14][4b-15]。また、学習成果（出席・単位取得状況）や進級状況を学部教員間で共有することによって学生の学習成果を適切に把握している[4a-16][4a-17][4a-18][4a-19]。

0406	教育課程、教育内容、教育方法について点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいる[4b-21]。 以上のことから、DP に則して、学習成果の適切な把握および評価が行われ、成績評価・単位認定および学位授与について基準に従って実施されていると判断できる。
長所・特色	
0405	中部大学教育支援 Tora-Net Portal により、各教員は指導学生の単位修得状況を把握するとともに、取得単位数の少ない学生に対しては、最低学期ごとに個別面談を実施している[4b-16]。また、その結果を共有のために Web 上に記録を残している[4b-21]。
0405	学生の学修状況を組織として共有・評価する取り組みとして、「学びに関する調査」結果を教授会で共有するとともにその分析結果についての FD 活動を実施した[4b-1]。
0406	毎年のシラバスの第三者点検により、教育内容、授業計画、成績評価基準等の適切性について第三者による確認を行っている[4a-18]。
留意点	
＊各項に留意点レベルを記入 [A]・・・緊急の改善を要する事項 [B]・・・検討を要する事項	
特になし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

△：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021~2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 経営情報学部

基準 5 学生の受け入れ

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0504	学生募集および入学者選抜方法の全般にわたる詳細な検証、それに基づく学生募集上の戦略策定と入学者選抜方法の改善を行う。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
厳しい学生募集環境への対応ならびに女子学生比率向上の取り組みとして、高校別・入試種別ごとの入学後の学修状況を分析した上で、県内外の高校（春日井泉高校、東濃実業高校）との連携を進めるなど、具体的な学生募集戦略を実行に移しつつある。また、県外の有望な高校の指定校化などを進めている。さらに、県内外における他大学の学生募集に関する情報を高校や他大学の教員から入手し、今後の戦略を検討中である。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	0501	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。	自己 評価	A
評価の視点	(1)学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程）に設定しているか。 (2)学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。 (5)すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。			
現状説明				
・卒業認定・学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえ、入学者受入れの方針(AP) [5-1]を規定し、大学 HP 上の「情報公表」のページにて、広く社会に公表している。 ・AP[5-1]は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の学生像、および、判定方法を踏まえた設定になっている。 ・AP[5-1]では 4 つの求める人間像が示されており、それに対応すべく多様な入試形態、一般試験については対応する選択科目を設けるなど、学部の求める多様な入学者を選抜するにふさわしい、さまざまな入学者選抜方法[5-2]が用意されている。 ・上記項目に関連して、入学後の学修状況等を勘案して、2021 年度よりポートフォリオ入試の入試区分定員を 30 名から 15 名に変更している [5-3]。				

・入学者選抜において透明性を確保するための措置として、志願・受験・合格者数などの情報の他、過去問題や合格者最低点を公表[5-4]している。
・大学の入試・選抜委員会[5-5]の場で合否判定の原案が示された後、学部の入学者選抜委員会[5-6]にてその原案の検討を行って調整を図り、再び大学の入試・選抜委員会において最終的な合否判定がなされることになっており、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制が適切に整備されている。
・採点および合否判定は受験者氏名等を伏した上で実施し、試験の評価（点数）[5-7]によってのみによって行われており、公正な入試選抜を実施している。
・出願資格などは大学統一の基準で行われており、全ての受験者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している[5-2]。

自己点検・ 評価項目	0502	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。	自己 評価	A
評価の視点	学士課程全体および各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。			
現状説明				
・定員に対する入学者数比率[5-8]については、収容定員管理と学園の経営上の要請から設定される計画数に近づけるよう、最大限の努力が行われ、おおむね目標を達成している。ただし、2023 年度入試では、合格者の歩留りが想定以上に高かった影響により、1.17 倍となっている。 ・編入学入試については、本学他学部と比較すれば入学生を一定数確保しているものの、定員未充足が続いている。				

自己点検・評価項目	0503	学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
・毎年の学生募集や入学者選抜方法の適切性については、年度始めの学部教員集会や主任会議において、入試種別ごとの志願・入学の状況、入試種別ごとの入学時のフレッシュマンテストの状況、入試種別ごとの在学生の単位取得や GPA のデータ[5-9][5-10] [5-11]などに基づいて検証を行い、課題を明らかにしている。 ・主任会議にて、入学者の状況などを勘案しての指定校の選抜基準の見直し、ポートフォリオ入試の実施内容や選抜方針などの検討・見直しを行うと共に、その検証を定期的に行っている。 ・入学者の状況などを勘案しての指定校推薦の選抜基準の見直しを行った。 ・学生募集の取り組みについては、学部の最重要課題として主任会議や経営情報学部入試・広報委員会にて、オープンキャンパスの内容をはじめ学生募集全般についての検討が行われているほか、教授会で全教員に共有されている[5-12] [5-13]。 ・学生募集の取り組みとして、学部紹介動画の作成、学科パンフレットの作成、ニュースレターの発行などを行った。 ・学生の受け入れに関する課題として、女子学生比率の低さがあり、検討・対策を進めているところである[5-14]。新入生の女子学生比率は、2021 年 13.1%、2022 年 16.2%、2023 年 18.2%と着実に向上しているものの、依然低い状況にある。 ・オープンキャンパスや高校への出前授業では、学生に人気のある教員を派遣する努力をしている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0503	入試種別ごとの志願・入学の状況、入試種別ごとの入学時のフレッシュマンテストの状況、入試種別ごと（あるいは出身高校別）の在学生の単位修得や GPA、留年・退学などのデータなどに基づいて検証を行い、課題を明らかにしている。
項目 No. 0501	毎年、ポートフォリオ入試の実施内容および選抜方法の見直しを行うとともに、ポートフォリオ入試の入試区分定員を 30 名から 15 名に変更して合格者を厳選することで入学者の質の改善を図っている。
項目 No. 0503	学生募集の取り組みとして、学部紹介動画の作成、学科パンフレットの作成、ニューズレターの発行などを行った。
項目 No. 0503	入学者の状況などを勘案して、指定校推薦の選抜基準の見直しを行った。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 503	女子学生比率の向上
今後の改善・向上方策	
女子学生の関心度が高いコンテンツを取り入れた授業を展開したり、女子生徒の多い高校との連携授業を行ったり、女子生徒を意識した学生募集活動（パンフレット、オープンキャンパス）を展開したりしており、今後も継続・発展させる計画である。また、女子学生確保にどうしても必要となる施設設備の整備については、引き続き大学に訴えていく予定である。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 503	厳しい学生募集環境に対応しうる学部としての募集力強化
今後の改善・向上方策	
学生募集および入学者選抜方法の全般にわたる詳細な検証と、それに基づく学生募集上の戦略策定と入学者選抜方法の改善を引き続き行っていく。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0501	DP および CP を踏まえて AP が規定され、情報公開がなされているなど、公正・公平な入学者選抜が行われている[5-1][5-2]。
0502	定員に対する入学者数比率について、2023 年度入試では 1.17 倍になったものの、毎年計画数に近づけるよう努力が重ねられている[5-4][5-5][5-6][5-7][5-8]。
0503	学生募集や入学者選抜方法の適切性について、データに基づき検証し、課題の提起が行われている。また、入学者の入学後の状況に鑑みて、指定校の見直しなどが行われている[5-9][5-10][5-11]。
0503	高校別、入試種別ごとの入学後の学修状況の分析を、新たな学生募集の取り組みに結び付けている。
長所・特色	
0501	AP で 4 つの求める人間像が示され、それに則した入学者選抜が実施されている [5-1] [5-2]。
0502	入学者数を計画数に近づける目標は概ね達成されている。
0503	入試種別ごとの在学生の単位取得状況などの追跡によって、学生募集の適切性を検証している。主任会議にて指定校選抜基準の見直しなどが行われている[5-9] [5-10][5-11]。

0503	新たな募集戦略として、春日井泉高校および東農実業高校との連携を進めたほか、県外の有望な高校の指定校化を進めている。
0503	女子学生比率向上など、学生の受入れに関わる全般の取組みをまとめた学生募集アクションプランを策定している。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
【A】・・・緊急の改善を要する事項	
【B】・・・検討を要する事項	
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 経営情報学部

基準 6 教員・教員組織

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0604	学部としての FD 活動が実施されているが、根拠資料の FD 活動評価点検報告書[0604a]における学部の取り組み結果はやや少ない印象があるので、さらに充実をはかることが望ましい。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
近年では、年に数回、学部独自の FD 関連行事（講演会など）を行うようになってきており、改善・充実してきている。また、学科内で FD 委員会を設置し、今後の FD 活動の内容に関するスケジュール案を立てている。さらに、スケジュール内容については、主任会議や教授会で報告している。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0601	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)大学として求める教員像や教員組織の編制方針に基づき、教員組織を編制しているか。 ※具体的な例 ・教員が担う責任の明確性。 ・法令で必要とされる数の充足。 ・科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成。 ・各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理。 ・複数学部等の基幹教員を兼ねる者について、業務状況や教育効果の面での適切性。 (2)クロスアポイントメントなどによって、他大学または企業等の人材を教員として任用する場合は、教員の業務範囲を明確に定め、また、業務状況を適切に把握しているか。 (3)教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。 (4)授業において指導補助者に補助又は授業の一部を担当させる場合、あらかじめ責任関係や役割を規程等に定め、明確な指導計画のもとで適任者にそれを行わせているか。			

現状説明				
・学部の専任教員数について、大学設置基準の人数[6-1]は満たしているものの、分野の偏りが見られる。 ・教育上主要と認められる授業科目について、基本的には専任教員（教授、准教授、講師または助教）[6-2]で、実施できる教員配置となっている。また、女性教員、外国人教員も一定数おり、特に約3割が女性教員であり、他の経営系学部よりも高く、バランスのとれた教員構成といえる。 ・学部の授業担当については、各教員原則12コマ負担として学部教務委員会で検討され、主任会議で確認を行っている[6-3][6-4][6-5]。 ・学部運営の役割分担については、主任会議で検討し、教授会で確認を行っている[6-6][6-7][6-8]。				

自己点検・評価項目	0602	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準および手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。 (2)年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。			
現状説明				
・教員組織、昇格などの教員人事については、中部大学教員資格基準で明確化されている[6-9]。 ・また、学部教員の採用・昇格基準ならびに審査プロセスについて、2021年度の教授会で議論が進められ、新たな「経営情報学部 昇格・採用基準」が2021年7月に制定され、2023年4月に一部改正された[6-10]。				

自己点検・評価項目	0603	教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発および改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (2)教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (4)教員以外が指導補助者となって教育に関わる場合、必要な研修を行い、授業の運営等が適切になされるよう図っているか。			
現状説明				
・学部にFD委員会を置くとともに、前年度末に次年度の重点目標の設定を行って、全学のFD委員会に提出し点検を受け、当該年度の翌年度始めに目標の達成度を振り返る活動報告書[6-11]を全学のFD・SD委員会に提出して点検を受けることになっている。 ・学部独自のFD活動を通常の会議外の行事を多く実施しており、教育課程や授業方法の開発および改善につなげる組織的な取り組みを行っている。				

自己点検・評価項目	0604	教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	(1)教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
・年齢構成、国際性、男女比、専門分野などを含めた教員組織の適切性については、カリキュラム改正や新規採用人事を実施する際に、都度、学部長や主任会議[6-12][6-13][6-14]などにおいて検討が加えられている。 ・年度始めに各教員が重点目標の設定を行い、年度末に自己点検・評価[2-8][2-9][2-10]を行うことで、エビデンスに基づく点検評価を実施しており、また、主任会議の構成員は『教育・研究活動に関する実態資料』などのエビデンスから教員組織の適切性の確認ができるものの、組織全体としての点検・評価や組織的な目標設定の実施などにはいたっていない。 ・各教員の負担の公平性をできるだけ確保するため、教員の受講者数なども含む授業負担、全学並びに学部学科の委員等の分担状況などを確認しながら授業担当や学部内役割分担を行っている[6-15]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0604	学部内役割分担の、適材適所と負担の公平性の両立への努力

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No.	
今後の改善・向上方策	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0601	教員数は設置基準を満たしている。各教員の担当授業科目・担当授業時間は学部教務委員会および主任会議において適切に把握されている [6-1][6-2][6-3][6-4][6-5]。
0602	教員人事は「中部大学教員資格基準」、および「経営情報学部昇格・採用基準」に基づき公正に行われている[6-9][6-10]。
0603	全学のFD・SD委員会点検を受けている。さらに、学部独自のFD活動では、教育課程や授業方法の開発・改善につなげる組織的な取り組みを行っている[P6-1]。
0604	主任会議で教員組織の適切性について検討されている[P6-1]。
長所・特色	
0601	女性教員・外国人教員の人数の割合が高く、他の経営系学部と比較してバランスの取れた教員構成である。
0603	学部独自のFD委員会を設置し、教育課程や授業方法の開発・改善につなげる組織的な取り組みを活発に行っている[P6-1]。
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	
【A】・・・緊急の改善を要する事項	
【B】・・・検討を要する事項	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
P6-1	2021年度FD活動実績報告書	○
P6-2	経営情報学部分野別教員一覧	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 経営情報学部

基準 7 学生支援

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	ハラスメントに関して、学生が相談しやすい雰囲気をつくることが望ましい[0702o]。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
学部での指導教授制のもとでの相談体制の他、全学の専門的支援も充実しているが、さらに学生が指導教授に相談しにくいなど様々な状況を想定して、学生が気軽に相談できる場を提供すべく、「よろず相談 time」の時間を設け、担当教員が個別の相談対応にあたることとした。また、ガールーン内において担当教員間で相談内容を共有している。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0701	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。	自己評価	A
評価の視点	(4) [修学支援 (学習面)] 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか (補習教育、補充教育、学習に関わる相談等)。 (5) [修学支援 (学習面)] 障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。 (6) [修学支援 (学習面)] 学習の継続に困難を抱える学生 (留年者、退学希望者等) に対し、その実態に応じて対応しているか。 (8) [修学支援 (学習面)] ICT を利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応 (授業動画の再視聴機会の確保等) を必要に応じて行っているか。 (10) [生活支援] 学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導相談を、学生の実態に応じて行っているか。 (11) [生活支援] 学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置 (学生の交流機会の確保等) を必要に応じて行っているか。とりわけ ICT を利用した遠隔授業を行う場合において配慮しているか。 (12) [進路支援] 各学位課程 (学士課程、修士課程や博士課程など) や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。			

	(13) [その他支援] ボランティア活動・部活動等の正課外における学生の活動への支援など、必要に応じた支援を行っているか。 (14) [学生の基本的人権の保障] ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応など、学生の基本的人権の保障を図る取り組みを行っているか。
現状説明	・障害のある学生に対する合理的配慮の取り組みが開始されたことを受け、「合理的配慮」についての教員の理解を深めるため、2023年度の学部FD活動として学生サポートセンター事務課課長に「中部大学における障害学生支援」をテーマに講演を行っていただいた[7-1]。 ・ハラスメント防止のための体制[7-2]としては、学科主任が窓口になり対応している他、全学組織として、相談窓口、相談委員、およびハラスメント調査委員会が適切に対応する体制が用意されている。 ・ハラスメント防止のための学部の取り組みとして、2021年度の学部FD活動としてハラスメントに関する講演会を実施した。「ハラスメントに関する基礎的な理解」をテーマにお話をいただき、教育研究の場で起こりうる様々なハラスメントの防止・対策についての理解を深めた[7-3]。 ・就学、生活、進路、その他の学生支援の体制として指導教授制をとっており、1・2年生はスタートアップセミナー担当教員、3・4年生は専門ゼミ担当教員が担当し、個々の学生をオフィスアワーその他の時間に指導教授が相談対応を行うほか、内容によっては学科主任が相談に乗って対応を行うとともに、学生相談室と連携している。 ・上記の学部の指導教授制や全学の専門的支援のほかにも、学生が気軽に相談できる場を提供すべく、「よろず相談time」の時間を設け、担当教員が個別の相談対応にあたっている[7-4]。また、ガールズ内において担当教員間で相談内容を共有している。 ・合理的配慮の必要な学生などの学生情報について、主任会議の場で共有され、また、必要に応じて教授会で報告される[7-5]。 ・資格取得に向けた個別相談の場として、資格学習室内で「資格何でも相談コーナー」を設置して担当教員が相談に応じるほか、資格学習においても教員や先輩による資格サポートを行っている[7-6]。 ・指導教授の他、学年担当指導教授をおき、オリエンテーションや学年行事を担当している[7-7]。また、キャリア開発担当教員、インターンシップ担当教員などをおくなど、学生の学修・生活・進路に関する適切な指導を行う体制を構築している。 ・留学生に対する支援に関しては、指導教授の他に留学生担当教員をおき、オリエンテーション時の履修指導をはじめ、その他のさまざまな支援を行っている[7-7]。 ・学生の能力に応じた補習教育を行う場として、学習支援室における学習支援が行われている。 ・多様な学生の修学に関する適切な支援を実施するため、1年次から4年次まで少人数のクラスできめ細やかな教育を行うゼミナールを設置し[7-8 p.9] [7-9 p.10] [7-10 p.10]、学生の能力・興味関心・進路に応じた学修支援を実施している。 ・正課外教育としては、大規模な総合大学のメリットを活かした豊富な国際交流プログラム、キャリア支援プログラム、大学独自資格（地域活性化リーダー・地域創生メディエーター等）など、さまざまな課外活動の用意がされている。 ・全学的な国際交流プログラムの他、学部独自の海外研修プログラムを計画し、2023年度から経営情報学部のアントレプレナーシップ教育の一環として「シリコンバレー海外研修」を実施している[7-11]。 ・学生の学修支援に関しては、主に指導教授が教育支援Tora-net portal[4b-16]内の学修ポートフォリオにより状況把握を行うとともに、成績不振者については、学期ごとに成績不振者を個別に呼び出して面談・指導を行い、また、その内容はWeb上に記録し、情報の共有がなされている。 ・留年者については、進級判定の教授会[4b-17] [4b-18] [4b-19]を実施し、情報の共有がなされている。 ・インターンシップについては、学部共通の正課科目として「インターンシップA・B」を設置しており、毎年多くの学生が参加するほか、学部の専門科目である「自主活動A・B」では学部独自でインターンシップ先を開拓し、課題解決型インターンシッププログラムを行っている[7-12]。 ・休学者については、休学に入る前に指導教授が面談を行い、休学者に関する意見書[7-13]を作成するとともに、学生の作成する復学計画書[7-14]の作成を指導し、休学中のケアを行っている。 ・学科の進路支援に関しては、キャリア開発担当教員がキャリア委員会規程のもと、キャリア支援課と連携して各種ガイダンスやキャリア支援行事を実施している。また、毎月の教授会[6-6] [6-7] [7-15]にて、キャリア開発担当教員によりその月に実施されるキャリア支援行事の案内、周知がなされている。 ・学生のキャリア支援に関する学部独自の支援として、学部専門科目としてキャリア教育関連科目を設置すると共

に、課外での学部独自のキャリア支援行事（ビジネスマナー講座など）[7-16]を実施している。

・学生への就職支援に関しては、主にゼミ単位で、各教員が指導生の就職指導やキャリア支援を行っている他、4年生の進路状況調査を定期的実施し、未内定者をキャリア支援課に繋ぐなど、指導教授（ゼミ担当教員）がキャリア支援に関してさまざまな役割を果たしている。特に、指導教員が学生の企業に対するエントリーシートの添削も学生の要望に応じて行っている。さらに、近年では学生の就職活動が3年生の4月から始まっており、3年生の10月頃から開始される企業の早期選考を受けさせるために必要な各企業独自のインターンシップ参加のための、エントリーを各指導教員が学生に対して促している。

自己点検・ 評価項目	0702	学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己 評価	A
評価の視点	(1)学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている 取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り 組みへとつなげているか。			
現状説明				
・毎月の主任会議にて、要支援者への支援をはじめとした学生支援全般についての情報共有や対応策の協議などが 行われ、改善・向上に取り組んでいる[6-3] [6-4] [6-5]。また、そうした活動を通じて、学部学生委員会の立ち 上げや新たな仕組みづくりなどがなされている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0702	全学で実施されているインターンシップの他、学部独自でインターンシップ先を開拓し、2・3年生向けに課題解決型のインターンシップを実施している。
項目 No. 0702	学部独自のキャリア支援行事として、学部2・3年生を主な対象としたビジネスマナー研修[7-16]を毎年実施している。
項目 No. 0702	学部教員による相談窓口「よろず相談 Time」を開設して気軽に相談できる体制を整備している[7-4]。
項目 No. 0702	資格取得を促進するため、新たに21号館4階に資格学習室を開設した[7-6]。
項目 No. 0702	学生支援をテーマとするFD活動（「中部大学における障害学生支援」、「ハラスメントに関する基礎的な理解」）を行ってきた[7-1] [7-3]。
項目 No. 0701	2023年度から経営情報学部のアントレプレナーシップ教育の一環として学部独自の海外研修プログラムである「シリコンバレー海外研修」を実施した。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	学部としての組織的な学生支援体制の構築
今後の改善・向上方策	
学部教員による相談窓口「よろず相談 Time」を開設して気軽に相談できる体制の構築を開始したが、それを迅速に組織的な対応につなげることができるよう、情報共有の仕組みなど、さらなる整備を進めていく予定である。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0701	全学的な取組みに加え、学部独自の「よろず time」、「資格何でも相談コーナー」、海外研修、ビジネスマナー講習を実施するとともに、4年間を通じた少人数制教育や問題解決型インターンシップの教育課程を設けるなど、学生支援に関する本学の方針に基づき適切に実施されている [7-6][7-7][7-8][7-9][7-10][7-12]。
0702	ハラスメント防止やプライバシーの保障、苦情申し立てへの対応として、学生が相談しやすい雰囲気のある支援体制への取り組みがなされている[7-2][7-3]。
長所・特色	
0701	学部独自の「よろず相談 time」、「資格何でも相談コーナー」、海外研修を実施するとともに、4年間を通じた少人数制教育や問題解決型インターンシップの教育課程を設けるなど、学生支援の取り組みが実施されている [7-4][7-6][7-7][7-8][7-9][7-10][7-11][7-12]。また、学部独自のキャリア支援行事としてビジネスマナー講座を実施している[7-16]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	[A]・・・緊急の改善を要する事項
	[B]・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するか評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 経営情報学部

基準 8 教育研究等環境

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0806	学部の IT 機器管理のほかにも、教育研究等環境の適切性について点検・評価を行う委員会を設置することが望ましい。もしくは主任会議での検討、承認、報告等の適切性について、定期的に点検・評価を行うシステムを構築していただきたい。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
経営情報学部では、理系学部のように施設設備面での教育研究環境の適切性をめぐる問題は生じにくく、学部構成員からの意見の吸い上げ、主任会議での議論・調整、教授会での報告・確認のプロセスで現状、大きな問題は生じていないものと考えている。また、このプロセスを通じて、アクティブラーニング対応教室の整備や資格学習室の設置などが実現している。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0803	研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。 また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。	自己評価	A
評価の視点	(2)研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っているか。			
現状説明				
・毎年4月の教授会にて、情報倫理教育が行われている[8-1] [8-2] [8-3]。 ・研究倫理教育の一環として、研究倫理教育のE-ラーニング教材であるeAPRINの受講が全教員に義務づけられており、多くの教員が受講している[8-1] [8-2] [8-3]。				

自己点検・評価項目	0804	教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教育研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教育研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			

現状説明
・毎年作成・報告を行う「学部等重点事業計画」案を作成するにあたって、学部構成員からの意見の吸い上げ、主任会議での議論・調整、教授会での報告・確認を行っている[8-4] [8-5] [8-6] [8-7] [8-8] [8-9]。 ・学部内の IT 機器に関しては、ICT 教育担当教員をおき検討が進められている [8-10]。 ・充実した教育研究環境の実現に向け、中規模講義室でのアクティブラーニング対応など、未実現の教育環境整備を進める。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色	《箇条書き》
項目 No. 0804	2021 年度よりアクティブラーニング対応教室 (221C 教室) が稼働開始し、多くの授業で活用されている。
項目 No. 0804	学生の資格取得支援のため資格学習室の整備が進められ、2022 年秋学期から稼働し、学生からの評判も高いものになっている [4a-12]。
項目 No. 0804	資格関連科目担当の教員が昼休みや放課の時間に資格学習室で待機し、質問や相談に応じている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項	《箇条書き》
項目 No. 0804	中規模講義室でのアクティブラーニング対応など、未実現の教育環境整備を進める。
今後の改善・向上方策	
学長ヒアリングの場などで教育環境の整備の必要性を訴えていく。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし
長所・特色
留意点
＊各項目に留意点レベルを記入 [A]・・・緊急の改善を要する事項 [B]・・・検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 経営情報学部

基準 9 社会連携・社会貢献

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

□ 課題事項 ☒ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0902	教員個人単位では、さまざまな社会連携や地域交流、社会貢献活動が行われているが、組織的な活動としての取り組みには至っていないため、それらの活動を学生への教育効果があることを考慮しながらまとめ、学生募集や保護者向けの行事などに活用できることが望ましい。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
・学部教員によって積極的に行われている社会連携・社会貢献活動について、見せ方を工夫して学生募集活動に活用する方策について検討をすすめており、学部パンフレットや HP で展開しているものの、必ずしも十分でなく、引き続き検討を進めているところである。 ・文部科学省の方針で高校における探究学習の重要性が増しており、社会連携活動と探究教育を結びつけた講演会を高校で実施することで、学生募集につなげている。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	0901	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。	自己 評価	A
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。 (2)社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。			
現状説明				
・すべての教員が「教育」を通じて広く社会に貢献している。 ・旧COC事業などの全学的取り組み、教員（ゼミ）単位での取り組みの他、学科に社会連携を前提とする科目である授業群（「社会連携A」「社会連携B」「経営実践」「ビジネスプラン」「フィールド研究A」「フィールド研究B」「自主活動A・B」）などを配置し[4a-17]、地域の企業と連携した授業を正課科目として多く開講する形で社会と連携した教育を実践している。 ・多くの教員が国や地方自治体での委員会の委員などとして社会貢献を行っている[4b-20]。 ・大学が実施している生涯教育のオープンカレッジ[9-1][9-2]に学部の多くの科目を開放するとともに、地域の公開講座の講師などをつとめ、地域への貢献を行っている。				

自己点検・評価項目	0902	社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
・正課科目として展開している社会連携授業について、一部教員に負担が集中している点や、その内容の点検・評価、ならびに改善・向上につなげる組織的な取り組みについては未整備である。 ・社会連携授業について、評価に関する組織的な取り組みは未整備であるものの、外部からの評価が高く、高校、企業、行政、そして議員が授業見学に来るケースも多い。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0901	企業や地域と連携した社会連携教育を積極的に展開している。
項目 No. 0901	多くの教員が行政機関などにおいて様々な委員会活動などを通じた地域貢献をおこなっている。
項目 No. 0901	社会連携授業の取り組み方法や内容について、他大学や高校の講演会に招請され情報を還元している。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	多くの教員が行っている社会連携、社会貢献活動を学部として戦略的に活用する方策を検討する。
今後の改善・向上方策	
・様々な展開している社会連携活動を学生募集活動に結びつける方策についての検討を進めるとともに、社会連携教育による人材育成を通じて地元で優秀な学生を輩出することで、地域社会に貢献する。 ・社会連携活動（探究教育）をテーマとした講演会も増えており、この機会を活用して高校での学生募集活動に結びつけている。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0901	学部パンフレットやHPを通じて、社会連携・社会貢献を学生募集につなげる活動を展開している。高校の探究授業と連携した講演活動を実施し、学生募集につなげている[P9-1]。
0901	全ての教員が教育を通じて広く社会に貢献している [9-1][9-2]。
0901	社会連携授業に関して、高校、企業、行政および議員からの評価が高い。しかし、その点検・評価、改善・向上に向けた組織的定期的な取り組みについては未整備である。

長所・特色	
0901 地域企業と連携した正課科目やオープンカレッジ科目を開講することで、地域社会の問題解決に貢献している。多くの教員が地方自治体の委員会に委員として参加することで地域貢献を行っている[9-1][9-2]。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	[A]・・・緊急の改善を要する事項 [B]・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
P9-1	講演会講師派遣依頼	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 経営情報学部

基準 11 大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	一部の委員会で議事録が作成されていないため、議事録を作成して残しておくことが望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
各種委員会などにおいて議事録、議事メモの作成を進めているほか、毎月の主任会議並びに教授会において配布・報告される「学部学科関連報告事項」にその月の各種委員会等の活動内容が集約されて記載されている【7-5】。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
・中部大学経営情報学部教授会規程[11-1]に基づいて経営情報学部教授会を設置しており、議事録も適切に作成されている[8-1][8-2][8-3]。 ・中部大学経営情報学部教授会規程[11-1]に基づいて経営情報学部主任会を設置しており、議事録も適切に作成されている[6-3][6-4][6-5]。 ・教授会の会議資料は、電子データ化してサイトにアップロードすることで事前配信されている他（ペーパーレス化）、必要に応じて紙の資料も会議で配布することになっている。また、事前配信した資料は会議の際、大型スクリーンに投影される。 ・教授会の会議資料については、学部ホームページ内教員専用ページ[11-2]に掲載され、必要に応じて閲覧できるようになっている。 ・学部の各種委員会は必要に応じて、随時、開催され、組織の運営は適切に行われている。また、毎月の主任会議並びに教授会において配布・報告される「学部学科関連報告事項」にその月の各種委員会等の活動内容が集約されて記載されている[7-5]。 ・毎年、年度開始前に、各委員会の必要性などを勘案して、委員会の新設や統廃合、およびそのメンバーについて主任会議で検討され、教授会で審議決定されている[11-3][11-4][8-10]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	毎月の主任会議並びに教授会において配布・報告される「学部学科関連報告事項」にその月の各種委員会等の活動内容が集約されて記載・報告されている[7-5]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No.	特になし
今後の改善・向上方策	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
【A】・・・緊急の改善を要する事項	
【B】・・・検討を要する事項	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2024年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名

経営情報学部

基準（シートNo.）	根拠資料 No.	根拠資料の名称	提出 区分
2. 内部質保証 (NF2)	2-1	2021年度（対象年度：2019-2020年度）自己点検・評価シート「経営情報学部」 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/evaluate/self-evaluation/before/2022report/	○
	2-2	2022年度（対象年度：2021年度）自己点検・評価シート「経営情報学部」 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/evaluate/self-evaluation/before/2021report/	○
	2-3	2023年度（対象年度：2022年度）自己点検・評価シート「経営情報学部」 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/evaluate/self-evaluation/2022report/	○
	2-4	2021年度第2回経営情報学部教授会議事録	○
	2-5	2021年度第5回経営情報学部主任会議事録	○
	2-6	2022年度第2回経営情報学部教授会議事録	○
	2-7	2023年度第2回経営情報学部教授会議事録	○
	2-8	2021年度 教育活動重点目標・自己評価シート	○
	2-9	2022年度 教員活動重点目標・自己評価シート	○
	2-10	2023年度 教員活動重点目標・自己評価シート	○
	2-11	教育活動顕彰制度一より良い教育を目指してー（2023年度実施要項）	○
	2-12	2021年度経営情報学部評価シート	△
	2-13	2022年度経営情報学部評価シート	△
	2-14	2023年度経営情報学部評価シート	△
	2-15	2021年度第10回経営情報学部主任会議事録	○
	2-16	2022年度第10回経営情報学部主任会議事録	○
	2-17	2023年度第10回経営情報学部主任会議事録	○
4. 教育・学習(4a) (NF4a・EF4)	4a-1	2024年度カリキュラム・マップ（経営総合学科） https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/21bs.pdf	○
	4a-2	中部大学ホームページ内「情報公表」 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/undergraduate_list/	○
	4a-3	2021年度学生便覧（DP・CP）	○
	4a-4	2022年度学生便覧（DP・CP）	○
	4a-5	2023年度学生便覧（DP・CP）	○
	4a-6	コースモデル別履修ガイド（冊子）	○
	4a-7	科目ナンバリング表(2021年度)	○
	4a-8	入学前ガイダンス資料	○
	4a-9	経営情報学部の社会連携教育	○
	4a-10	2023年度学生便覧（資格関連科目）	○
	4a-11	資格について（オリエンテーション配布資料）	○
	4a-12	資格学習室HP https://www.chubu.ac.jp/academics/business/qualification-room/	○
	4a-13	習熟度別クラス編成について（新入生クラス分けについての教務とのメール）	○
	4a-14	2021年度学生便覧（履修単位上限、進級要件、卒業要件）	○
	4a-15	2022年度学生便覧（履修単位上限、進級要件、卒業要件）	○
	4a-16	2023年度学生便覧（履修単位上限、進級要件、卒業要件）	○
	4a-17	シラバス「各科目」における各項目	○
	4a-18	シラバス記載内容における第三者点検について（依頼）	○
	4a-19	魅力ある授業づくりのために https://quest.chubu.ac.jp/LessonEval/	○
	4a-20	2021年度受講者数制限科目一覧	○
	4a-21	2022年度受講者数制限科目一覧	○
	4a-22	2023年度受講者数制限科目一覧	○
	4a-23	2021年履修相談一覧	○
	4a-24	2022年履修相談一覧	○
	4a-25	2023年履修相談一覧	○
	4b-1	「学びに関する調査」結果に基づく経営情報学部FD	○
	4b-2	「キャンパスライフ」試験と成績	○
	4b-3	中部大学学則第10条・第11条	○
	4b-4	『学生部便』No.195、p.2成績評価の確認	○

基準（シートNo.）	根拠資料 No.	根拠資料の名称	提出 区分
4. 教育・学習(4b) (NF4b)	4b-5	中部大学学則第18条	○
	4b-6	経営情報学部 経営総合学科「設置届出書」設置の趣旨理由書（該当箇所p.2）	○
	4b-7	卒論の提出について（依頼）	○
	4b-8	経営総合学科シラバス「卒業研究」	○
	4b-9	中部大学学位規程第5条	○
	4b-10	2021年度 第11回経営情報学部教授会議事録（卒業判定教授会）	○
	4b-11	2022年度 第11回経営情報学部教授会議事録（卒業判定教授会）	○
	4b-12	2023年度 第11回経営情報学部教授会議事録（卒業判定教授会）	○
	4b-13	2021年度学生便覧1. 履修要項の7. GPA制度	○
	4b-14	2022年度学生便覧1. 履修要項の7. GPA制度	○
	4b-15	2023年度学生便覧1. 履修要項の7. GPA制度	○
	4b-16	教育支援 Tora-Net Portal https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/top.do	○
	4b-17	2021年度 第12回経営情報学部教授会議事録（進級判定教授会）	○
	4b-18	2022年度 第12回経営情報学部教授会議事録（進級判定教授会）	○
	4b-19	2023年度 第12回経営情報学部教授会議事録（進級判定教授会）	○
	4b-20	2022年度教育・研究活動に関する実態資料	○
	4b-21	教育支援 Tora-Net Portal 内学修ポートフォリオ「面談記録」 https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/top.do	△
5. 学生の受け入れ (NF5・EF5)	5-1	中部大学ホームページ内「情報公表」入学者受入れの方針(AP) https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/undergraduate_list/ .	○
	5-2	2024年度中部大学入試要項	○
	5-3	2021年度入学定員	○
	5-4	中部大学HP 入試案内 「入試結果」 https://www.chubu.ac.jp/admissions/entrance-exams/result/	○
	5-5	中部大学入試・選抜委員会規程	○
	5-6	経営情報学部入学者選抜委員会規程	○
	5-7	入試・選抜委員会の判定資料	○
	5-8	中部大学入学者数	○
	5-9	2021年度第1回経営情報学部教授会議事録	○
	5-10	2022年度経営情報学部教員集会資料	○
	5-11	2023年度経営情報学部教員集会資料	○
	5-12	2023年度第1回経営情報学部入試・広報委員会議事録	○
	5-13	学部学科関連事項	○
	5-14	女子学生検討資料	○
6. 教員・教員組織 (NF6)	6-1	中部大学 法令定員と教員組織 [2023年度] https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2023/06/facts-figures-data-data-2023-info-1-5.pdf	○
	6-2	中部大学 教員数[2023年度] https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2023/06/facts-figures-data-data-2023-info-1-6.pdf	○
	6-3	2021年度 第6回経営情報学部主任会議議事録	○
	6-4	2022年度 第6回経営情報学部主任会議議事録	○
	6-5	2023年度 第6回経営情報学部主任会議議事録	○
	6-6	2021年度 第13回経営情報学部教授会議事録	○
	6-7	2022年度 第13回経営情報学部教授会議事録	○
	6-8	2023年度 第10回経営情報学部教授会議事録	○
	6-9	中部大学教員資格基準 大学 HP https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/regulation/main.php?menu=mokuji	○
	6-10	経営情報学部 教員資格および大学院担当資格基準	△
	6-11	2022年度学部等におけるFD活動評価点検報告書	○
	6-12	2021年度 第7回経営情報学部主任会議議事録	○
	6-13	2022年度 第8回経営情報学部主任会議議事録	○
	6-14	2023年度 第8回経営情報学部主任会議議事録	○
	6-15	全学委員と役割分担	○
7. 学生支援 (NF7・EF7)	7-1	2023年度経営情報学部・経営情報学研究科FD講演会	○
	7-2	ハラスメントの防止等に関する指針 https://www.chubu.ac.jp/current_students/warning/harrasment/index.html	○
	7-3	2021年度経営情報学部・経営情報学研究科FD講演会	○
	7-4	よろず相談timeらし	○
	7-5	2023年度第2回経営情報学部教授会資料（学部学科関連報告事項）	○
	7-6	資格学習室HP https://www.chubu.ac.jp/academics/business/qualification-room/	○
	7-7	年度始めの行事担当について（2022年度第11回経営情報学部教授会資料）	○

基準（シートNo.）	根拠資料 No.	根拠資料の名称	提出 区分
	7-8	2021年度学生便覧（ゼミナール・演習）	○
	7-9	2022年度学生便覧（ゼミナール・演習）	○
	7-10	2023年度学生便覧（ゼミナール・演習）	○
	7-11	2023年度シリコンバレー海外研修チラシ	○
	7-12	2023年度自主活動オリエンテーション資料	○
	7-13	休学者に関する意見書	○
	7-14	復学計画書	○
	7-15	2022年度経営情報学部教授会議事録	○
	7-16	2023年度経営情報学部ビジネスマナー講座開催のお知らせ	○
8. 教育研究等環境 (NF8)	8-1	2021年度 第1回経営情報学部教授会議事録	○
	8-2	2022年度 第1回経営情報学部教授会議事録	○
	8-3	2023年度 第1回経営情報学部教授会議事録	○
	8-4	2021年度 第4回経営情報学部教授会議事録	○
	8-5	2022年度 第4回経営情報学部教授会議事録	○
	8-6	2023年度 第3回経営情報学部教授会議事録	○
	8-7	2021年度 第4回経営情報学部主任会議議事録	○
	8-8	2022年度 第4回経営情報学部主任会議議事録	○
	8-9	2023年度 第3回経営情報学部主任会議議事録	○
	8-10	2023年度学部委員会・WG担当（案）	○
9. 社会連携・社会貢献 (NF9)	9-1	2023年度春学期エクステンションカレッジ開講科目一覧	○
	9-2	2023年度秋学期エクステンションカレッジ開講科目一覧	○
11. 大学独自の評価項目 (NF11)	11-1	中部大学経営情報学部教授会規程	○
	11-2	学部ホームページ内教員専用ページ https://www3.chubu.ac.jp/business/faculty_staff/keijyo/	○
	11-3	2021年度経営情報学部学内委員一覧	○
	11-4	2022年度学部委員会・WG担当	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管